

けんびょういん

Contents

- 平成最後に当たり
県病院の過去・現状と未来について ——— 2
- 各部・科からの便り ——— 3・4
- 県病院秋まつりが開催されました — 5
- 受診される皆様へ
～電子カルテ変更のお知らせとお願い～ ——— 6



平成最後に当たり

県病院の過去・現状と未来について



副院長
上田 幸夫

よう研修が必要と思われます。

また、新中央診療棟の建設計画も順調に進んでおり、3月には新しい保育所が完成し、定員も60名まで増員され、今後増加する女性医師やコメディカルの就労にも助けとなると思います。そして、立体駐車場の工事も開始されます。

当院は昭和14年に内科、外科、耳鼻咽喉科、産婦人科の4科32床で開設されてから昨年で80年目を迎えました。私は昭和60年に当院に赴任し、その後編纂された50周年記念誌の記事によると、当時の当院は医師数68名、看護師326名、薬剤師16名など職員数は554名で、病床数は715床、外来数約1500名、病床利用率は95%、平均在院日数26日、手術件数2360件（全麻1200件）でした。当直も1名で全科当直、研修医はいても数名でした。その後の県病院の基幹病院としての発展は目覚ましいものがありました。呼吸器内科、血液内科、内分泌内科、形成外科、乳腺外科、呼吸器外科、血管外科などの増設で臓器別の診療体制や緩和ケア医療の充実、高精

度放射線治療センター、内視鏡室、外来化学療法室、血液浄化センター、地域医療連携センターなどの診療体制の変化は、地方独立行政法人として病院の独自性が発揮できるようになってからでした。愛知県に近いこの地域と岐阜地区との違い、医師や看護師など職員の採用の不自由さ、愛知県と比較して待遇の悪さなどがあり、これらは独法化して短期間で解消された感があります。それぞれの病院長をはじめとして病院経営陣がその時代の中で苦労してきた結果だと思っています。

DPCなど新しい病院経営について先取りをする形で対応できていること。自治体病院として良好な経営について総務省から表彰され、DPCの係数が上位につけていること。そして、中・西病棟が建設され、また新中央診療棟の計画が順調にすすめられていること。これは職員全体の努力の結果であり、病院の良好な経営が支えになっていることを忘れてはいけないと思います。さて、病院を取り巻く状況はますます変化しておりその対応が必要となつていきます。まず、周辺医療機関の変化です。この地方の医療機関の規模縮小や統合など、今後中央線沿線の人口減少や、年齢構成などの変化に応じた病床のコントロールなど医療機関だけでは解決できない、行政の問題があります。当院はこの地域の唯一の基幹病院としておかれた責任を果たすために病院内の充実だけでなく、周辺医療機関と連携していく必要があります。専門的・高度な医療の集約化と役割分担が必要です。

たとえば、以前耳鼻科は当院以外にはほとんど常勤医がいなかったのですが一時は中津川から可児まで各市の病院に2名の常勤医がいました。現在は中津川市民病院に1名、東濃厚生病院に1名のみで多治見市民病院を含め常勤医は不在となっています。関連大学に耳鼻科医が不足しており、今後同じような状況が続くと予想されます。当院の役割が大きくなっています。

基本理念「安全で、やさしく、あたたかい医療に努めます。」を実行するために、各自がもう一度自分が何をすべきか見直してみてもよいかと思っています。

循環器内科コラム

今回は、ペースメーカーのお話をします。心臓には、洞結節、房室結節という、心拍数を決め心臓を動かす指令部位があります。目に見えませんが、レントゲンやエコーでも見ることはできません。この指令部位が障害されると脈が遅くなる、徐脈性不整脈と診断されます。脳への血流が減るため、めまい、ふらつきが生じ、時に失神します。

診断には24時間心電図（ホルター心電図）が一般的ですが、ループレコーダーという4cm程度のモニタを皮下に埋め込み、2から3年間、遠隔モニタリングして不整脈をとらえることが可能となりました。

徐脈性不整脈の治療はペースメーカー移植術となります。胸部皮下にポケットを作り、ペースメーカー本体を植込み、静脈を介して右心房、右心室に電線（リード）を留置し、接続します。患者さん自身の脈を優先させ、遅すぎる時にリードを介して心臓を動かします。

最近ではリードレスペースメーカーが保険適応となりました。これは、文字通り電線（リード）がなく、長さ2.5cm程度のペースメーカー本体（図）を右心室に留置します。適応疾患に制限がありますが、術後

皮下ポケット部位の感染の危険が少なく、リード断線などの長期的なトラブルもなくなります。当院では昨年までに15名の患者さんにこの治療を行いました。

ペースメーカーとして、このほかに、右心室電線（リード）による除細動が可能な機能を持ち、心室細動という致死的な不整脈を治療するもの（AEDのペースメーカー版）があります。また、冠静脈洞から電線（リード）をもう一本留置して、左心室と右心室をより生理的に拍動させ、重症心不全を治療するものもあります。

当院では、循環器内科および臨床工学部の不整脈チームが上記の診断、治療を行っています。不整脈の治療の進歩は目覚ましいものがあります。県立多治見病院にお任せください。

（文責 副院長兼内科統括部長 日比野剛）



リードレスペースメーカー
（日本メドトロニック社より提供）

薬剤部便り

「毎日服用する薬が余ることはありませんか」

病院や診療所で診察を受けた後に薬が処方されている方にお聞きします。毎日飲む（使用する）薬は誰が準備されていますか。自分の薬は自分で管理されている方、準備してくれるご家族がみえる方、ヘルパーさんや施設の職員さんなどが準備してくれる方、いろいろなケースがあると思います。飲み難かったり飲み忘れなどの理由で薬が余ってくることはありませんか。一方で、風邪や栄養補給などのために自分で市販薬やサプリメントなどを購入して飲むことはありませんか。1つの袋に2種類以上の薬を混ぜてしまつて、何の薬か、どの薬をどれだけ飲むのか、分からなくなったことはありますか。



病院や診療所に受診して次に飲む薬が処方される前に、手元に残っている薬を一度確認して下さい。何の薬が分からない時や必要以上に多数の薬が残っている場合は、医師や薬剤師に相談して下さい。薬が多くて飲み難かったり飲み忘れたり、副作用が心配で飲むのをためらったりすることはありませんか。市販薬やサプリメント等との飲み合わせが心配で処方薬を飲まないことはありませんか。手元に何ヵ月分かの薬が貯まる前に、余った薬を捨ててしまう前に、医師や薬剤師に相談して下さい。どんな些細な事でもいいです、まず相談して下さい。

薬を飲み忘れたり薬がたくさん余ったりすることは先生には言い難いと思います。しかし、そのままにしておくと更に余分な薬が増えたり、間違つた薬の飲み方をしたり、検査の結果によっては増量になったりすることになってしまいます。手持ちの残薬が少し増えてきた時点で、受診している医師や薬局の薬剤師に早めに相談して下さい。些細な事でも相談することが薬と上手く付き合うコツの一つです。

（文責 薬剤部 薬剤部長 堀内 正）

BCP訓練を終えて

平成30年11月8日(木)、当院初となるBCP(=Business Continuity Plan:事業継続計画)訓練が実施され、多治見市消防本部、岐阜県立多治見看護専門学校、東邦ガス、日本ゼネラルフォードの協力の下、職員255名(医師48名、看護師115名、薬剤師などその他92名)が参加し、南海トラフ巨大地震を想定した際に起こり得る被災状況下での災害医療対応力向上を目指しました。BCPと言う単語は聞き慣れないかも知れませんが、厚生労働省では平成24年から当院を含む全国の災害拠点病院に対して、来たるべき南海トラフ地震に備えて、被災状況下で利用可能な限りある医療資源を考慮した上で、病院機能を維持しないし早期に復旧させて、発生する多数傷病者に対する「最大に最良」な医療を提供出来るよう、具体的な手順を計画として纏め、確実に遂行出来るよう定期的な訓練を行うよう指導して来ました。その計画のことをBCPと呼び、平成27年には策定が義務化されたこともあり、昨年度から本格的に準備・検討を進めて来ました。実は当院では5年前から災害実働訓練としてトリージ訓練について

は実施してきました。トリージとは傷病者を傷病レベルによって選別し、レベルに応じた医療行為を行うためのふり分けのことで、優先度が高い順に赤、黄、緑、黒の4色のカテゴリが存在します。BCP策定のためのビジネスインパクト分析では当院で治療最優先の赤患者93名に対応しないと、地域で発生する傷病者を救うことが出来ないとい見積もりました。これは平時に病院で対応可能な赤患者数の400%超、且つ発災時には停電、断水、施設破壊など平時に利用可能な資源が使えない、病院機能低下状況に陥るため、災害拠点病院でも全ての搬送患者に対して平時のような「個々に最良」の医療は提供不可能と言うのが現実です。医療従事者としては大変苦しい、救うべき命に対してのみ最大限資源投入する選択を迫られるのですが、そうならないためにも先ずは地域の皆様には日頃から十分防災対策を実施して頂き、受傷者にならない努力をして頂きたいと切に願います。もし万一受傷し、命を救える可能性があれば、ベストを尽くせるよう災害拠点病院としての責務を全うすべく、今後も訓練を通じて組織全体で努力して行きます。

(文責 管理課 施設管理担当 築樋昂二)

新保育所建設便り

保育所について

1 概要

新中央診療棟建設の整備に先立って、現在病院北側にある院内保育施設を多治見市池田町2丁目地内へ新築移転することとなりました。新たな院内保育施設は、温もりが感じられるよう木造とし、0歳児から2歳児までを対象に、定員は現在の40名から60名へ増員し、平成31年3月に開設を予定しています。

2 保育施設のコンセプト等

安心して子育てと仕事が両立できる環境づくりを目指し、「緑と園舎でつみ込む、みんなのうちに」をコンセプトとしました。外装仕上げや内装仕上げに地元産のタイルや県産材の木材を使用するとともに、タイルの原料である粘



土と同じ土色の外壁、高低差のある敷地形状を活かした、擁壁に植栽することで、花や緑、自然に囲まれた保育施設を実現しています。

また今回の保育施設の目玉として、エントランス内にそら豆の形を積み上げたモニュメント式の下足入れ「そらまめの木」を配置し、施設北東側にはモザイクタイルを飾った「キラキラねっと」を設置するなど、見て使って楽しい保育施設となっています。

さらに建物北東側の外壁には、保育施設名である「けんびょういんキラキラキッズ」と表示しますが、「けんびょういん」の部分はこの病院広報誌「けんびょういん」の表紙で使用している七色のロゴをタイルで製作することとしています。

3 おわりに

近年、医師・看護師不足が深刻となっているなか、職員が安心して働けるよう環境づくりの一環として、子育てと仕事が両立できるよう院内保育施設の整備に取り組んできました。新保育施設の開設後はこれまで以上に魅力ある職場になればと考えています。

(文責 管理課 施設管理担当 山田陽介)

県立多治見病院秋まつりが開催されました!!

11月4日の日曜日、県立多治見病院秋まつりが開催されました。当日は朝から雲が広がり、雨が降るあいにくの天気でしたが、多くの方にご来場いただきました。秋まつりは、地域の皆さんと交流を深めるというテーマのもと、今年で8回目を数え、毎年多くの方にご来場いただいています。実は県立多治見病院秋まつりは3つの大きな目玉があります。

●いろいろな情報を発信する市民公開講座!

イベントの目玉となるのが、市民公開講座です。毎年健康に関する事柄をテーマに据えて開催してきました。今年は放射線治療をテーマに浅野放射線治療科部長と鎌田中央放射線部技術主査に講演していただきました。講演終了後は、今年度から運用している放射線治療装置TrueBeamの見学会が開かれました。多くの方が参加され、機器や操作室などを熱心に見入っていました。



●体験から情報まで様々なブース!

各部署が出展するブースは見もので、普段病院では何を行っているかが、ブースを見ることによってわかってきます。中でも、看護師になりきれ“未来のナースあつまれ”や、手術の機器に触れる体験コーナー、お菓子を利用して調剤を体験できるブースなどは子どもを中心に大変好評でした。また健康に関わるコーナーなどあり、老若男女が楽しめるブースが盛りだくさんです。

●まつりの醍醐味職員屋台!

職員が出店する屋台コーナーも毎年好評を博しています。今回は若手職員が中心となって、販売品の企画から販売までをプロデュースして、焼きそば、たこ焼きなどが出店され、早い時間から売り切れが出るほどの人気ぶりでした。それ以外にもキッチンカーの出店もあり、スイーツの甘い香りがあたりに漂っていました。



今まで地域の皆さんとの交流の場ととらえイベントを開催してきました。今後も皆さんにより深く理解してもらえるよう、イベントの開催にとどまらず、SNSなどを活用して様々な情報を発信していきたいと考えています!

未来のナースあつまれ

看護部としてテーマを“未来のナースあつまれ”と掲げ看護部長を中心とした6名のメンバーでおもてなしをしました。ブースの部屋の入口の壁には看護部の研修風景の写真を貼り、興味をもてるように活動のPRをしました。ご家族で来場され、お子さまが選んだお気に入りの看護服・白衣に着替え、当院のマスコットキャラクターである「うな丼ちゃん」のパネルの前で好きなポーズで写真撮影。数種類ある写真台紙の中から気に入ったものを選び、写真をその場で貼って記念に渡しました。笑顔で喜んで写真撮影する姿は、とてもほっこりした気持ちになりました。私たちがとても気持ちが癒された時間でもありました。中には将来看護師や医師になりたいと話すお子さまもいました。また毎回参加されている患者さんのご家族や職員の家族も目立ちました。雨の中でしたが約130名来場され好評で終わりました。



最近では少子化が深刻な問題になっています。これからの将来を担う子どもたちを大切に地域社会で育てましょう。今年は新しい時代を迎えます。数年後には医療従事者として、活躍できる人材が一人でも多く誕生するきっかけになればと切に思います。今年の秋まつりにも多数のご来場をお待ちしております。

(文責 中6階病棟 大坪尚子)

受診される皆様へ

【電子カルテ変更のお知らせとお願い】

当院では、2019年5月1日から新しい電子カルテを導入する予定ですが、操作や入力に不慣れなため、今まで以上に外来の混雑、待ち時間の増大が予想されます。このため、お身体の状態に応じてかかりつけの先生等への紹介をすすめております。何卒ご理解賜りますようお願い申し上げます。

かかりつけの先生のご判断により、当院受診が必要となった場合は、当院への紹介状をお持ちの上予約、受診ください。

岐阜県立多治見病院 院長

TOPICS



Facebookをご覧ください！

皆さんの病院のイメージはどういうものでしょうか。病気になって来るところ、怖いところ、暗いところ等、ネガティブなイメージが強いのではないのでしょうか。

しかし我々職員は、来院された方や入院された方に、少しでも気持ちを和らげて頂きたいという思いが強くなります。今までは情報発信に限界がありましたが、近年 SNS が普及して、当院でも Facebook のページを運営しております。そこでは病院の行事・イベント等を紹介しておりますので是非ご覧いただき、イベントに足を運んでいただければと思います。

うな井ちゃんが持っている QR コードを読み取るか、下記のアドレスを打ち込んでいただくとスムーズに見ることが出来ます。

<https://www.facebook.com/tajimihospital>

平成30年度 健康づくり講座年間予定表

開催希望日(時期)	演 題	施設名	講演者(所属・役職)
1月22日(火) 14:00~15:00	上手な病院のかかり方 —事務、看護師、技師の立場から—	脇之島公民館	棚村、森藤、山中 医療連携スタッフ(事務、看護師、放射線技師)
1月31日(木) 13:30~14:30	動脈硬化と足の病気	根本交流センター	堀部 秀樹 循環器内科部長
1月31日(木) 14:00~15:00	第2の心臓といわれている足を守りましょう	精華公民館	日比野 剛 副院長兼内科統括部長
2月12日(火) 13:30~14:30	上手な病院のかかり方 —事務、看護師、技師の立場から—	笠原中央公民館	棚村、森藤、山中 医療連携スタッフ(事務、看護師、放射線技師)
2月21日(木) 14:00~15:00	狭心症、心筋梗塞のカテーテル治療	小泉公民館	堀部 秀樹 循環器内科部長
3月1日(金) 13:30~14:30	健康食品と薬の使い分け	旭ヶ丘公民館	堀内 正 薬剤部長
3月7日(木) 13:30~14:30	第2の心臓といわれている足を守りましょう	養正公民館	日比野 剛 循環器内科総括部長
3月20日(水) 10:30~11:30	認知症予防の活動(するために)	滝呂グリーンビレッジ 第2集会場	矢野 孝久 リハビリ副技師長

※八百津町と御嵩町依頼の講演会も行っております。演題及び参加資格等詳細については、各市町村のホームページにてご確認ください。



地方独立行政法人

岐阜県立多治見病院

平成31年2月1日発行 第39号

発行責任者／近藤泰三 編集／地方独立行政法人 岐阜県立多治見病院広報委員会



岐阜県立多治見病院 公式ホームページ

<http://www.tajimi-hospital.jp>



岐阜県立多治見病院 公式フェイスブック

<https://www.facebook.com/tajimihospital>

